

## 日本通関業連合会によるタイ・ラオス海外調査の概要

日本通関業連合会(鈴木宏会長)は、平成24年1月15日から1月20日までの間、澤山精一郎日本通関業連合会理事(長崎通関業会会長)を団長に、連合会常務理事、全国各地区通関業会に所属し、通関業務の中核を担っている通関士をメンバーとする総勢16名の視察団をタイ・ラオスに派遣しました。連合会の海外視察では初めて、女性通関士5名も参加しました。

### 【ラオス】

ラオスは、人口690万人、日本との貿易がまだ少なく、日系物流事業者はほとんど進出していない国ですが、アセアンの内陸輸送の重要な経由国として、「インドシナをつなぐ国(Land Linked Country)」を目指してインフラ整備を進めております。また、低廉な人件費・光熱費、豊富な天然資源、治安の良さなどを背景に積極的に外国企業を誘致しており、これからの発展が期待される国となっています。

1月15日から17日、視察団はラオスの首都ビエンチャンを訪れ、ラオス関税局の職員からラオス税関の概要及び通関事情の説明を受け、質疑ののち、郊外のラオス・タイ国境の友好橋に近接するタナレーン税関を訪れ、国境を頻繁に行き来する旅客・トラックのチェックポイント、輸出入通関・貿易施設を視察しました。

タナレーン税関では、ラオス税関近代化のため最近トライアルとして始めた電算システム(ASYCUDA)による通関処理状況を見学しました。トライアル中ということもあり、業者申告室及び税関事務室の双方にコンピューター端末を配備のうえ、業者申告室の端末で多くの業者が申告データを入力しており、税関事務室の端末ではこの申告のランク分けを行って審査、輸入許可を行うというNACCSと同様のコンセプトものが導入されておりました。ラオスでは、まだ専門の通関業者が存在せず、また、関税等の納税を電算システムでは行えないため、輸入許可まで数日を要するケースがあるとのことですが、電算システムがラオス全域で運用されることになれば、迅速通関の実現に大きく寄与するものと期待されます。

ビエンチャン・ワットタイ空港では、空港税関を訪れ、税関職員と意見交換を行うとともに、空港上屋を視察しました。定期航空便の機材が小型で、航空貨物の物量は少なく、通関手続の電算化は行われていませんが、緊急性のある貨物については、即日通関も行っているところ

です。また、ビエンチャン郊外の異業種5名の日本人の方が起業したラム酒工場を訪問しました。ラオスの若者を雇用し、ラム酒製造(サトウキビ栽培から発酵・蒸留まで)を短期間で成し遂げ、現在は日本を含め世界各国に輸出するまでに至ったとの話に、貿易の一翼を担う者として、日本人の持つバイタリティー、貿易がもたらす影響力、可能性を深



く印象づけられました。

#### 【タイ】

タイは、人口6,550万人、貿易相手国として日本は輸入で第1位、輸出で第3位を占め、日アセアンの貿易(輸出入総額ベース)では日本の第1位の貿易相手国となっているように、日本とは緊密な経済関係があり、現在も発展し続けている国であります。

1月17日から19日、視察団はタイの首都バンコクを訪れ、初めにバンコク郊外のレムチャバン港を視察しました。同港は、コンテナ取扱量世界第20位の巨大港(442万TEU、2009年)で、東京港(26位、375万TEU)、横浜港(38位、280万TEU)を上回り、アセアンでは第2位のコンテナ港となっています。管理棟では港湾局幹部からレムチャバン港の現況、今後の拡張計画、コンテナの安全対策等の説明を受け、質疑を行ったのち、ポートタワーよりレムチャバン港及び周辺貿易施設を一望しました。



今回の視察では日本の女性通関士5名が参加しましたが、タイでは税関、貿易の分野において女性の活躍が目覚ましいため、ホテルバンケットルームにタイ通関業会(正会員193社、準会員を含め492社の会員数)の女性副会長を講師に招き、「グローバルイズムの中における女性の税関職員の役割」と題し、約1時間、講演を行っていただきました。若くして物流会社に勤め、その実績から会社を立ち上げ、経営に携わってきた経験を振り返りながら、また、



外部からみた税関事情としてタイ関税局では最近6名の女性副局長が就任していることを例に引用し、女性が働く環境は大きく変わったので今後も多くの女性に活躍して欲しいとの前向きな講話に、女性通関士からは感銘深い講話に感謝したいとの謝辞がありました。

タイの通関事情については、同じくホテルバンケットルームにて日系物流事業者から、輸出入通関制度の概要(通関手続の全般、執務時間、関税評価、貨物のフロー等)、海上施設、航空施設、工業団地、洪水被害の状況等の幅広い説明を受け、質疑を行いました。

最後に、バンコク北部に所在する工業団地の一部及び周辺の状態を車窓より視察しました。洪水被害からの早期の復旧を願ったところです。

本視察にご協力いただいたタイ・ラオスの関係者の皆様には、深く感謝申し上げます。